

第10回 日本免震構造協会賞 -2009-

第10回日本免震構造協会賞は、右に記す諸氏及び作品を表彰することに決定した。

表彰制度の目的

免震構造の技術の進歩及び適正な普及発展に貢献した者並びに建築物を表彰することにより、免震技術の確実な発展と安全で良質な建築物等の整備に貢献していくことが本協会の表彰制度の目的である。

表彰の対象

功労賞は、多年にわたり免震構造の適正な普及発展に功績が顕著な者に、技術賞は、免震建築物の設計、施工及びこれらに係る装置等に関する技術としての優れた成果にそれぞれ贈る。作品賞は、免震構造の特質を反映した、優れた建築物とする。

表 彰

2009年6月4日

(社)日本免震構造協会通常総会後

(社)日本免震構造協会表彰委員会委員

河村壮一 (委員長)	江本正和	北村春幸
木林長仁	小泉雅生	小堀 徹
平島 寛	中埜良昭	

審査経過

本年度は、技術賞に3件、作品賞に11件の応募があった。功労賞への応募は無かった。

第1回委員会で、審査対象の選定、審査方法および日程等につき審議し、技術賞応募全件のヒアリングと、作品賞応募全作品の現地審査を2月から3月にかけて行った。これらを踏まえて第2回表彰委員会を開催し、厳正な審査の結果、技術賞1件、技術賞(特別賞)1件、作品賞4件を選出した。また今回特別に作品賞(啓発普及功績賞)を設け1件を選出した。

技術賞には、耐震・制震・免震技術を組合わせたハイブリッド免制震構法による免震レトロフィットを選定した。変位抑制を図って効果的に保存・再生を実現している。技術賞(特別賞)には、積層ゴム支承の座屈安定性の理論と実験に基づき木造住宅への適用を実現した技術を選んだ。従来常識を覆す貴重な成果である。

選考結果

第10回日本免震構造協会賞受賞は下記の7件である。

I 技術賞

- 1) 日本大学理工学部駿河台校舎5号館の免震レトロフィット
学校法人日本大学 石丸辰治
清水建設株式会社 湯山康樹 広瀬景一 山岸俊之
横藤田弘
- 2) <特別賞>高い座屈安定性を有する積層ゴム支承の力学挙動解明と実用化
東京都市大学 研究開発チーム 西村 功、杉野 潔
安田 隆、佐々木頼孝
中村 貴

II 作品賞

- 1) シスメックステクノパークR&Dタワー
株式会社竹中工務店 西崎隆氏 村上陸太 熊野豪人
芹澤好徳 石原 哲
- 2) 代々木ゼミナール本部校 代ゼミタワー
学校法人高宮学園 高宮行男
大成建設株式会社 輿石秀人 藤山淳司 欄木龍大
岩田 丈
- 3) 木津川市庁舎
木津川市市長 河井規子
株式会社日建設 多賀謙蔵 田代靖彦 小松慎二
三井住友建設株式会社 永野輝和
- 4) 慶應義塾日吉キャンパス 協生館
学校法人慶應義塾 清家 篤
株式会社環境デザイン研究所 仙田 満
株式会社三菱地所設計 新居 仁 塚谷秀範
金箱構造設計事務所 金箱温春
- 5) <啓発普及功績賞>奥村記念館
株式会社奥村組 木村修治 篠原 努 服部晃三
得田健一 中屋成人
(敬称略)

作品賞受賞作品は、意匠・構造・設備・環境の全ての視点から、いずれも極めて高いレベルの作品である。免震技術に加えて、大型架構の採用や分節化により空間構成の明確化が図られ、意匠的にもインパクトのある作品となっている。また、制振技術の併用による居住性・安全性の向上や、省エネ・地域環境への配慮などがなされている作品もある。

作品賞(啓発普及功績賞)は、免震技術の一般への啓発・普及に対する積極的な貢献を評価したものである。

今回、複数の応募をした組織があった。意欲の現れでもあり、審査過程で排除することはしなかったが、反対意見もあり、組織内での事前調整も一法かと思う。なお今後は、制振建築物も表彰対象に含めることとし、募集要項にその旨を記述することとした。

(河村壮一)